

同志社大学
2013年度卒業論文

論題：今出川地域の個人経営の飲食店と同志社大学生との関わり
-2013年度同志社大学文系学部今出川移転にともなう変化-

社会学部社会学科

学籍番号：19101010

氏名：稲本朱珠

指導教員：立木茂雄

(本文の総字数：25,913字)

要旨

論題：今出川地域の個人経営の飲食店と同志社大学生との関わり

-2013年度同志社大学文系学部今出川校地移転にともなう変化-

実際に2013年4月に同志社大学の文系学部が今出川校地に移転した。学生数は、約8000人増え、それを予測してオープンしたチェーン店にも人が溢れている。その一方で、個人経営の飲食店へはどのような影響があったのか。今出川地域の個人経営の飲食店約30店舗へ足を運び参与観察を行ったのち、そのうちの6店舗について、店舗経営者へのインタビュー調査を行った。飲食今出川地域の個人経営の飲食店と同志社大学生との関わりを中心に、その中でも特に2013年度に行われた同志社大学文系学部の今出川キャンパス移転の影響を中心に分析した。今回の移転に伴っての変化と傾向、店舗による影響の差の原因を探り、同志社大学生が個人経営の飲食店に与えている影響とは何かについて、今後の展望も含めて論じていく。

キーワード：学生と地域 個人経営飲食店 同志社大学 校地移転

目次

はじめに

第1章	同志社大学文系学部の今出川校地移転	・・・ 2
1.1	大学のキャンパス移転の社会背景	
	(1) 郊外化の動き	
	(2) 都心回帰の動き	
	(3) 都心回帰によって求められている大学像	
1.2	同志社大学文系学部の今出川校地移転とは	
	(1) 同志社大学の両校地について	
	(2) 今出川校地への文系学部移転について	
1.3	今出川校地移転にともなって見られた変化	
	(1) 地域の変化	
	(2) 学生の変化	
第2章	研究の目的と方法	・・・ 6
2.1	本研究の目的	
2.2	対象地域	
2.3	調査方法	
第3章	フィールド調査の結果と考察	・・・ 9
3.1	フィールド調査の結果	
3.2	フィールド調査の考察	
第4章	インタビュー調査の結果と考察	・・・ 13
4.1	インタビュー調査の結果	
4.2	インタビュー調査の考察	

おわりに

参考文献

はじめに

私は、2004年4月から2007年3月まで同志社中学校に通っていた。当時は、今出川キャンパス内に中学校が存在していたため、その3年間は今出川キャンパスで過ごした。2010年4月から今現在は、同志社大学社会学部社会学科に在籍しているため、約4年間、今出川・新町キャンパスに通ってきた。実家から通っているため、夜ご飯は自宅で食べるが多かったが、昼食は大学付近の飲食店に行く機会が多かった。そこでは、一人の客としてそれぞれの飲食店に思うことがあった。また、私は一年次生から同志社大学広告研究会に所属し、同志社大学学生支援課発行の今出川地域の情報発信誌『イマ*イチ』に関わってきた。そこでは、取材という形で特に個人経営の飲食店を訪れる機会があった。その取材を通して、学生に対してそれぞれの飲食店が関わり方を持っていたり、学生の傾向について興味を持っていたりすることを感じ、学生と今出川地域の個人経営の飲食店との関係性について、興味を持つようになった。

2013年4月に同志社大学の文系学部がすべて今出川キャンパスに移転することが決まり、2012年秋以降、今出川地域にはさまざまな変化が起こった。飲食店に関係することでは主に、大手チェーン店が複数入った商業ビルが今出川通りに建設されたことをはじめとして、チェーン店の新店舗の増加が目立った。これは、顧客となる同志社大学の学生数が大幅に増えることを見込んでのことである。しかし、一方で今出川の名店として知られていた「わびすけ」が閉店し、マンションとなったことなどから、個人経営の飲食店に対する影響について興味が湧いた。

実際に2013年4月以降、学生の数は目に見えて増え、オープンしたチェーン店にも人が溢れるという状況を見て、個人経営の飲食店への影響と飲食店の意識について調べてみたいと思うようになった。そこで、卒業論文のテーマを、今出川地域の個人経営の飲食店と同志社大学生との関わりとし、その中でも特に2013年度に行われた同志社大学文系学部の今出川キャンパス移転の影響を中心に分析することを決めた。本論文では、今出川付近の飲食店約30店舗に足を運び、参与観察を行ったのち、6軒の店舗にインタビュー調査を行った。そこから、同志社大学生が個人経営の飲食店に与える影響と、今回の移転に伴っての変化、今後の展望について論じていく。

第1章 同志社大学文系学部の今出川校地移転

1.1 大学のキャンパス移転の社会背景

同志社大学では、2013年度から文系学部の全学生が今出川校地に通うようになった。それまで京田辺校地に通っていた学生のうち、約8000人が今出川校地に通うようになるため、数年かけてキャンパスの大幅な拡張工事が行われた。これは、大学内だけの問題ではなく、今出川地域の生活環境が大きく変化するということであると考えられる。このような動きは、同志社大学だけにとどまるものではない。ここ数年、首都圏および京阪神都市圏にある大学の都心回帰が進んでおり、1970年代後半から1990年代にかけて、郊外に広大なキャンパスを取得して移転した大学が、都心回帰およびキャンパスの再編成を行う傾向にある。また、同志社大学もそうであるように、「サテライトキャンパス」を都心や大阪市の中心部に置く大学も増えている。これらのキャンパス移転の社会背景について、(1) 郊外化の動き、(2) 都心回帰の動き、の2時期に分けて述べ、都心回帰後にどのような大学像が求められているのかについて分析していく。

(1) 郊外化の動き

終戦後の新制大学発足に際して、当時のアメリカ軍事司令部の指示によって国立大学が1県1大学の方針で設立された。しかし、自然発生的に生まれた私立大学は、大都市に集中した。大都市では、学生を確保することもたやすく、また学生の子弟の入学も見込めたことから、大都市やその周辺地域に多く生まれたと考えられる。(小林 1978)

その後、学部数の増加とともに学生数が増え、大規模の大学が増えた。同志社大学もその代表的な一大学である。それまで、キャンパス計画の見地からは大規模の大学であっても管理運営の能率化という点において、一つのキャンパスに全学部を統合させることが望ましいとされてきた。しかし、進学率の上昇に伴って、過飽和学生状態になった。地価の騰貴と首都圏整備法などの法律により、都心部でのキャンパス拡大は厳しい状態であった。そのため、騰貴した市内の現在の敷地を有利に処分し、その資金で郊外の広々とした土地を買って拡張を行った方が合理的であるという動きが見られた。(小林 1978)

郊外型キャンパスは、「空気が綺麗」「キャンパスが広い」「自然が多い」と受験生に評判がよく、文化講座などによってその地域へ大学の知を還元することができるのではないかとマスメディアでも大変に評判が高かった。また、鉄道会社にとっても都心への通勤ラッシュとは逆の郊外への朝の大量通学輸送が期待できるメリットがあった。もともと、欧米の一方、大学移転の跡地の都市部では、次々と企業の高層ビルが建てられ、都心部の業務空洞化、経済都心化の引き金となった。

(2) 都心回帰の動き

1990年代に入ると、バブル経済が崩壊し都心の地価が下がった。さらに、都心での施設拡大

を制限していた国の規制が 2002 年、小泉純一郎政権の構造改革によって廃止されたことで、大学の「都心回帰」が一気に可能になった。また、少子化で受験競争が緩和された受験生の大学選別意識は高まり、交通の便が悪く、遊ぶ場所が少ない郊外キャンパスが敬遠されるようになった。大学側は、少子化の中で学生獲得に向けて新たな動きが求められた。学生にとって、都市の中心部のキャンパスは、通学、アルバイト、就職活動に便利であり、また遊ぶところにも困らないため魅力的である。大学にとっては、学術・研究の情報収集に便利な都心部で講義が行えることはメリットである。ほかにも都心回帰が相次ぐ理由として、1,2 年次生と、3,4 年生のキャンパスが分断されていると、早期の専門教育ができづらく、法科大学院や経営大学院、会計大学院などの専門職大学院と学部との連結が難しくなり、ただでさえ経営的に厳しい大学院の定員確保ができづらくなるなどという経営的問題の影響もある。

(3) 都心回帰によって求められている大学像

近年、大学の都心回帰の要因は、少子化によって学生が減り、その少ない学生が大学を選ぶ基準に「都市部にあること」という条件が含まれることが大きいということが挙げられる。1.3 で述べたように、都市部に大学のキャンパスを移すことは、その土地の人々の生活環境を大きく変えることになる。では、どのような「大学像」が、求められているのか。

立教大学「都市と大学」プロジェクト報告『21 世紀の都市型大学に向けて』に、「ネットワーク型キャンパスの提案」がある。「大学と地域社会との一対一の固定的な関係は、もはや時代のすう勢にそぐわない。地域社会に根差しながらも、地域社会を超える拡がりが必要とされる。」

(西山・奥田 1990: 223)「おそらく『キャンパスのない大学』『地域社会自体がキャンパス』との新しい発想の大学システムが求められてくる。」(西山・奥田 1990: 223)とあるように、大学を再び都市に戻すことで新しい大学と地域との関係が求められているのではないかと考えられる。その関係とは、大学と大学がある地域という薄い関係ではなく、地域社会に大学が積極的に介入し、地域社会自体を学びの場として捉えるような関係である。

さらに、大学の機能や存在意義について、このような記述がある。

抽象的なレベルの問題として、大学は、都市のいろいろな社会現象をその都度客観的な情報におきかえて、それを蓄積していく、そして、それを公的な共有財産にしていく、という情報収集装置として機能する制度的な組織になる、と同時に、そのようにして集められた情報にもとづいて社会的に発現する生活要求にこたえる手だてを模索していく、という情報発信装置として機能する制度的な組織になる、そうすることによって都市における大学のレーゾンデートルを確立することができる、ということがいえると思います。(西山・奥田 1990: 223)

つまり、大学は今後、学生数の獲得とともに都市部で新たに地域との関係性を築くことが求

められていると考えられる。大学が、学生の学びの場や研究の場というだけでは存在意義にはならず、その地域を使って学生が新たな地域との関係性を築くような教育システムが求められているのである。

1.2 同志社大学文系学部の今出川校地移転について

次に、同志社大学の今出川、京田辺両校地についてと、2013年の同志社大学文系学部今出川校地移転の変遷について述べる。

(1) 同志社大学の両校地について

同志社大学には、現在、今出川校地と京田辺校地の二つの校地が存在する。

今出川校地は、文系学部が学ぶ今出川キャンパスを中心に、寒梅館のある室町キャンパス、社会学系学部を中心とした新町キャンパスからなる。敷地面積は97,000㎡であり、約20,000人が学生生活を送っている。鎌倉中期に貴族の邸宅が建ち始め、室町時代には足利義満の「室町殿」(現・室町キャンパス)や近衛家の別宅(現・新町キャンパス)が、江戸時代には薩摩藩邸(現・今出川キャンパス)が置かれるなど、長きにわたり日本史の表舞台であった場所である。

京田辺校地には、京田辺キャンパスがあり、理系学部の学びの拠点として、学部棟、機械実習工場や各種実験棟など、最先端の実験設備・機器がそろそろほか、同志社ローム記念館および情報メディア館など、情報教育設備も整えられている。また、各種競技場から合宿施設まで、充実したスポーツ環境を完備している。近隣には学研都市キャンパスがあり、生命科学・医学領域を中心とした研究活動を展開している。2010年には多々羅キャンパスが開設され、外国人留学生や地域住民との交流拠点であるとともに、多数のスポーツ施設を有しており、新たな課外教育活動の場として期待されている。

(2) 今出川校地への文系学部移転の変遷

今回の今出川校地への文系学部移転は、長く続く同志社大学の校地拡大の一環である。1884(明治17)年に、同志社最初の煉瓦建築、彰栄館が竣工され、1886(明治19)年には今出川キャンパスの礼拝堂(チャペル)が竣工された。これは両建物とも国の重要文化財である。その後、1947(昭和22)年には、同志社中学校・同志社女子中学校が誕生した。翌年の1948(昭和23年)には、同志社大学神・文・法・経済学部が開設され、同志社高等学校、女子高等学校も誕生した。そのまた翌年には、商学部と工学部を新設し、大学は全6学部となる。

学生の増加に伴って、1986(昭和61)年4月には田辺校地開校し、1985年1月起工式をおこなって建設に着手し、1986年4月から全学部第1部1・2年次生の授業が開始された。その後、2004年に

新設された政策学部に関しては、全学年新町・今出川キャンパスへの通学となり、神学部と社会学部に関しても2009年からは全学年が新町・今出川キャンパスへの通学となった。

今回の今出川キャンパスへの文系学部移転は、これらの計画の最終段階であり、まずそれまで今出川校地内にあった同志社中学校を2010年に高等学校があった岩倉へ移転させ、同志社中学・高等学校とした。その移転後の用地に、新たに「良心館」(地下2階、地上5階、建築面積約8,000㎡、延床面積約40,000㎡)を設立し、教室、研究室、学生の自習室や福利厚生施設、他者との交流やグループ学習などを通して学生たちが自ら課題を発見し、情報を収集・分析し、新たな知識を創造する「新しい学びの広場」として日本最大規模のラーニング・コモンズ等を設立した。また同時に2010(平成22)年10月、京都市から産業技術研究所繊維技術センター用地を譲り受け、新たに烏丸キャンパスを開設し、教室、研究室、学生の自習室や福利厚生施設、ラーニング・スタジオ(仮称)等を備えた新校舎「志高館」(地下1階、地上3階、延床面積約16,800㎡)を建設した。その結果、今出川校地には、今出川キャンパス・新町キャンパス・室町キャンパス・烏丸キャンパスの4キャンパスに文系学部生20,000人が通う今の形になった。

1.1で述べた社会背景と照らし合わせてみると、この変遷について次のように分析できる。学生数の増加に伴って、学生のニーズに合わせて多様な学部を設置し、それらの施設の充実のために京田辺校地を開設した。しかし、少子化によって学生のニーズが変化し、今出川という歴史ある都市でのキャンパスライフを魅力として学生を集めようと今出川校地への文系学部移転が行われた。また、4年間同じキャンパスの方が、大学のような専門的な教育を行う機関には適しているという声も反映されている。

1.3 今出川校地移転にもなって見られた実際の変化

この節では、今出川校地移転にもなって、地域や学生にどのような変化が見られたかについて整理する。今回の論文テーマに沿って、飲食に関係すると考えられる事柄について述べている。

(1) 地域の変化

2012年秋頃から、学生数が約8000人増えるということから、今出川に下宿する学生の増加を見込んで、ワンルームマンションの増築が行われた。飲食店が閉店になって、不動産屋になるというケースもいくつか見られた。

今出川に増加する学生が、文系学部の1年次生と2年次生である。この学生たちは、授業数も多く、サークル活動も積極的に行うことが考えられたため、昼食や夕食を友人たちと学校付近で食べる機会が増えると予想された。そのため、大手チェーン店の新店舗オープンが相次いだ。居酒屋関係では、2012年秋には烏丸今出川の交差点南西にある雑居ビル内に、あらたに居酒屋チェーン店の「鳥貴族」がオープンしたり、今出川通には「時代屋」がオープンしたりした。さらに2012年12月には、大手飲食店チェーン店やカラオケ、スーパーなどが入った商業

施設が烏丸今出川の交差点北西にオープンした。飲食店はファミリーレストランの「サイゼリヤ」と定食屋の「やよい軒」。スーパーの「フレスコ」、「ジャンボカラオケ広場」、自転車屋の「エイリン」が入っている。この施設が出来たことにより、今出川通を通る学生数が目に見えて増えた。施設の前には、いつも自転車がたくさん止められ、授業が終わる18時以降からは特に学生の姿が多く見られる。また、2013年4月には、烏丸通沿いを挟んだ向かい側に出町柳に本店を構えるラーメンチェーン店「つけ麺マン」もオープンし、昼休みの時間帯や、授業後の夕食時には行列が出来るほどである。

(2) 学生の変化

今出川キャンパスの改築工事によって、地下鉄今出川駅の無人改札口から直接地下の入り口を通して、良心館へと入ることが出来るようになった。今までは一度地上に出て、西門まで烏丸通を歩く必要があったが、それがなくなった。また、良心館の地下階段を上がるとすぐに、新たに出来た食堂と購買があり、その前にはテーブルがたくさん並んでいる。ラウンジもあるため、そこには昼休みをはじめとして多くの時間にたくさんの学生がいる。昼休みの時間帯に昼食を食べているだけではなく、授業の空き時間や放課後に購買で買ったお菓子や飲み物を食べたり飲んだりする姿もよく見かけるようになった。これによって、学生数は増えたものの、個人経営の飲食店に行く学生の総数が大幅には増えていない可能も考えられる。

第2章 研究の目的と方法

2.1 本研究の目的

第1章では、大学のキャンパス移転の社会背景と、同志社大学の場合における社会背景について述べた。それをふまえて、今回の移転が地域に与えた影響を考える中で、人間の三大欲求の中の一つ食に関係する「個人経営の飲食店と同志社大学生」の関係について、明らかにすることが本研究の目的である。同志社大学文系学部の今出川校地移転に伴って、近隣の個人経営の飲食店にどのような影響を与えたのかを明らかにする。各店舗によって、その影響は異なると考えられるが、それぞれの店舗の相違点から、影響の背景にはどのような条件があるのかを含めて、分析していきたい。その中で、今出川という地域に学生が与えた影響と、今後どのような関係性を築くことができるかについて考察し、大学の都心回帰の展望について論じたい。

2.2 対象地域

本研究の中で行う今出川地域の個人経営の飲食店への調査において、主に図1の四角形の範囲内の店舗を対象とした。



図1 フィールド調査対象地域

図の中の四角形は、一辺が約1.5kmの正方形であり、今出川キャンパスまたは新町キャンパスから徒歩15分以内の範囲を示している。この範囲内の個人経営の飲食店を中心に調査を行った理由としては、第一に同志社大学学生が足を運ぶ可能性が高い地域であるということが挙げられる。キャンパスから近いということは、その店舗の前を通る確率もあがる。同志社大学生のうち、実家生でキャンパス付近を自転車で移動できない学生でもその飲食店に行こうとする動機が生まれる必要があったからである。同志社大学の昼休み時間は、12:15～13:10である。その時間内か、もしくは昼休み前後の2限または3限に授業がない学生が気軽に足を運べ、ゆっくりと過ごすことができる範囲ということも考慮した。また、夕飯を食べる目的でお店を選ぶ場合、授業や課外活動で疲れたあとにわざわざ15分以上歩く必要がある場所に行かないだろうと考えられる。以上の理由が、この範囲の個人経営の飲食店に対してフィールド調査を行った理由である。

2.3 調査方法

まず、先ほど述べた調査対象地域の中に、どのような個人経営の飲食店が存在するのかを調査する必要があると考えた。また、実際に飲食店を訪れることで、一人の同志社大学生として

の目線で飲食店を捉えることができると考えたため、フィールド調査を行うことにした。実施期間は、2013年5月23日から2013年11月21日である。Google マップのアプリとノートとペンを用いて行った。調査対象地域の中の個人経営の飲食店について、食べログやfacebook ページなどのウェブサイト調べたり、実際にその付近を歩いて偶然見つけたり、また、友人や先輩からおすそめを覚えてもらうなどを行うことで、店舗を見つけた。調査した時間帯は、同志社大学の昼休みの前後、または授業後やサークル活動後に夜ご飯を食べると想定できる時間帯のどちらかである。キャンパスからの位置（近い飲食店は昼食で使いやすく、少し距離がある飲食店だと夜の方が使いやすい）と同時に、各飲食店の広報を見て、同志社大学生である私がどちらに行きたいと思ったかという二つの軸から選択した。各飲食店が公開している情報に加えて、実際に店内でしか分からないことを含めて地図と表にまとめた。項目は、1)開業時期、2)開業年、3)飲食形態、4)営業時間、5)定休日、6)席数、7)席内容、8)価格帯、9)所在地、10)広報手段、11)店主/従業員、12)学生客の割合、以上12項目と観察内容である。注意して観察した内容としては、店の雰囲気、店主の様子、客層、食事についての4点である。

次に、フィールド調査の結果をもとに、調査対象地域の飲食店について、同志社大学生が利用していること、開店時期、位置、お店の雰囲気などの情報をもとに表2に記載している6店舗に絞り、インタビュー調査を行った。

表1 インタビュー調査の対象と実施日、時間

店名	対象者の役職	対象者について	インタビュー実施日	インタビュー時間
立ち呑みカフェCLOVER	店長	40代男性	2013年11月26日	2時間
AMUCA	店長夫妻	30代女性、男性	2013年12月3日	1時間
ひなた	店長	30代男性	2013年12月9日	40分
モナミ	店長	50代女性	2013年12月10日	1時間30分
cafe kozora	店長夫妻	30代女性、男性	2013年12月10日	1時間
イーサン	店長	30代男性	2013年12月12日	1時間

実施期間は、2013年11月28日から2013年12月12日である。調査には、携帯電話の録音機能とノートとペンを用いた。インタビューの具体的な内容としては、1) 開店の動機と位置決定理由、2) お店のコンセプトやこだわり、3) 客層とその特徴、4) 広報やサービス、5) 同志社大学生との関わり、6) 今出川校地への同志社大学文系学部移転に伴う影響、7) 今出川通に建設された大手飲食チェーン店を含む商業施設の影響、である。インタビューでは、それまでに来店したときの感想などを伝え、店主の方が話しやすいように気を配り、形式的な質問にならないようにした。これらについて明らかにすることで、今出川地域の個人経営の飲食店と学生との関わりの変化と現状をふまえ、影響を及ぼす条件について分析していく。

第3章 フィールド調査の結果と考察

3.1 フィールド調査の結果

フィールド調査を行った今出川地域の個人経営の飲食店19店の概要をまとめたものが表2である。

表2 フィールド調査の結果①各飲食店の概要

番号	店名	開業時期	開業年	飲食形態	営業時間	定休日	席数	席内容	価格帯	所在地	広報
1	モナミ	A	1960年頃 (15年前に 改装)	喫茶店	11:00~19:00	日曜日	30	テーブル席2人×3/4 人×6	オムライス小600円/クリームチ キン(ライス付)900円	E	twitter(お店の人では なく同志社の卒業生が ボランティアで更新し ている)
2	ド	A	1980年頃	喫茶店	11:00~17:00	日曜日	24	テーブル席4人×6	焼きそば400円(ドリンク付600 円)/コーヒー250円	B	なし
3	おもりの里	A	?	定食屋/居酒屋	11:30~21:00	土曜日	40	座敷席4人×6/テー ブル席4人×4	定食750円~/井ぶり550円~	H	食ベログ
4	タイレストラン イーサン	A	1995年	多国籍料理	11:00~14:30 17:00~22:00	年末年始	46(離れ に個室 2部屋)	テーブル席4人×6/6 人×4	ランチバイキング1200円/麵・ カレー・丼セット各980円	H	HP/食ベログ
7	パザールカ フェ	A	1998年	多国籍料理/カ フェ	11:30~20:00	月・火・水・ 日曜日	27	テーブル席2人×3/4 人×3/テラス3人×3	ランチ500円~/ケーキ450円	E	ウェブサイト
5	陽燈館	B	?	喫茶店	11:00~18:00	月曜日	18	カウンター6席/テー ブル4人×3	ケーキセット800円	E	HP/アミーバブログ /facebook(いいね! 78)
6	cafe kozora	B	2011年7月	カフェ	11:30~16:00 (L.O.15:30) 18:00~23:30 (L.O.22:30)	不定休	16	カウンター4席/ソファ 1席(4人がけ)/テー ブル2人×4	ランチセット850円~/コーヒー 450円	H	facebook(いいね! 41)、アミーバブログ、 食ベログ
8	シルエットカ フェ	B	2012年	カフェ	12:00~22:00 (L.O.21:30)	無休	15席	カウンター3席/テー ブル4人×3	ランチ800円/コーヒー400円	G	食ベログ
9	らくろう	B	2009年12月	定食屋/居酒屋	11:30~14: 00/17:00~ 23:00(L.O.)	月曜日	18	1カウンター6席1/4人 テーブル3席	ランチ750円	D	食ベログ/ぐるなび
10	AMUCA	B	2010年	カフェ/喫茶店	11:00~21:00	月、最終 火	21	カウンター3席/テー ブル2人×2/4人×1/大 きなテーブル(8人が け)	ランチ850~900円/コーヒー 400円	E	yahooブログ
11	つじ堂カフェ	B	2009年	カフェ	11:00~20:00	日曜日・祝 日	15	カウンター3席/テー ブル2人×4/4人×1	ランチ650円~/コーヒー400円/ ケーキセット(ドリンク付)600 円	B	食ベログ
12	樹々丸	B	2010年6月	カフェ	11:30~19:00 (LO 18:00)	月曜・日曜 不定休	12	ちゃぶ台2人×2/4人 ×2	ランチ900円/コーヒー400円/ ケーキ500円~	D	HP
13	河村食堂	C	2012年11月	イタリアンレスト ラン/カフェ	11:30~14:00 18:00~21:00	月曜日	12	カウンター6席/テー ブル2人×3	パスタランチ650円~/グラスワ イン330円	G	アミーバブログ /twitter
14	SWING STREET CAFE	C	2012年9月	カフェ	11:00~ 23:00(L.O.22:0 0)	月曜日	20	テーブル席2人×6/4 人×1/ソファ1席(4 人)	ランチセット800円(ドリンク付) /デザート400円~	B	なし
16	イノクマカフェ	C	2012年9月	カフェ1/定食屋	11:30~15:00 (L.O.14:00) 17:00~22:00 (L.O.21:00)	木曜日	15	テーブル席4人×3/2 人×1/1人×1	ランチセット(ドリンク付)850円	A	ウェブサイト /twitter/facebook/食 ベログ
15	イヤサカ食堂	C	2013年4月	カフェ	12:00~19:00	火曜日	15	カウンター3席/テー ブル	ランチ950円/コーヒー450円	G	twitter/食ベログ
17	立ち呑みカフェ CLOVER	C	2013年2月	立ち飲み/カフェ	平日7:00~ 24:00土日9:00 ~24:00	不定休	8	カウンター8席	カレー700円/コーヒー300円/ ケーキ350円	H	HP/facebook/アミー バブログ
18	Social Kitchen (café haco)	C	2013年7月	カフェ/イベン トスペース	11:00~24:00	月・火・土・ 日曜日	12	テーブル席2人×2/6 人×1/ソファ1席(2 人)	今日のごはん800円/コーヒー 450円	C	HP/facebook/twitter/ イベント(貸切可)
19	ひなた	C	2013年5月	カフェ	11:30~15:00 17:30~21:00	日曜日	26	テーブル席4人×5/2 人×3	パスタランチ	B	twitter/食ベログ

以後、この表の読み取り方について説明する。

1)開業時期については、ABCの3段階で表記している。Aは、同志社大学に京田辺キャンパスが出来る以前、つまり1986年以前からある飲食店である。Bは、社会学部と政策学部の学生が4年間新町キャンパスに通うようになった2005年から今回の今出川回帰が本格化した2012年9月の間にオープンした飲食店である。Cは、2012年9月以降にオープンした飲食店である。

9)所在地については、同志社大学今出川キャンパスと新町キャンパスを軸に、調査対象地域を図2のように9分割した。東西の通りは、北から上立売通、今出川通である。南北の通りは、東が烏丸通、西が新町通である。



図2 調査対象地域を9分割した図

Fのエリアは同志社大学今出川キャンパス、Iは京都御所であるため、飲食店は存在していない。

各飲食店にそれぞれ1時間~2時間滞在し、観察を行った。その結果が表3と表4である。

表3 フィールド調査の結果②各飲食店の観察結果1～10

番号	店名	調査日時	店主/従業員	学生の割合	観察内容
1	モナミ	2013/11/4 13:00～14:00	50代女性1人	少し学生が多い	昔ながらの喫茶店。外からは営業中なのか分かりにくい。学生3人のグループ客と、サラリーマンがランチを食べていた。食べ終わった後、ゆっくりとしている人もいるし、すぐに帰る人もいる。コーヒーだけを注文して新聞を読むサラリーマンもいた。お昼どきでも満席というわけではなく、ぼちぼちお客さんが来る。1人でお店を回しているため、混むと注文の品が出てくるのは遅くなる。 男性客が圧倒的に多い。学生だけではなく、同志社の教授、OB、近所の主婦の方や、工事現場で働く男性のグループと学生が混在している。 12時半で満席になる。ほとんどの人は焼きそばセットを注文。鉄板で出てくる目玉焼きがのった焼きそばはボリュームたっぷり。
2	トピト	2013/11/5 12:00～13:00	50代女性2人	少し学生が多い	学生には少し入りにくい感じの昔ながらの定食屋さんという雰囲気。学生からサラリーマン、ご老人まで様々で、老若男女に長年愛されてきたという感じのお店。女将さんが気さくで元気な人だった。料理はボリューム満点で美味しい和食。お客さんはサラリーマンの3人組と、1人のサラリーマンが2組。学生は前を通るが入ってこなかった。あまり周りの友人でも来店したという人は聞かない。
3	おももの里	2013/10/10 13:00～14:00	店長(30代男性)、タイ人のコック、アルパイトの学生1人	学生は多いが、留学生とと思われる人が多い	お昼休みに行ったので満席。外から見た感じは少し怪しい雰囲気なので、入りにくい感じがあつたが、入ってみると気さくな雰囲気。ランチは少し値段が高いがボリュームもあり、何より美味しい。店内には日本人客はほとんどいなくて、日本語が聞こえなかった。お客さんは留学生と外国人の方がほとんど。 場所が分かりにくいので知っている人が通っているイメージである。職場で差別を受けるかもしれないバックグラウンドを持つ人が働いている。ご飯は、日替わりで多国籍料理でベトナム料理を食べたが500円とは思えない美味しさだった。
4	タイストラウン アイサン	2013/7/25 12:30～13:30	30代男性/外国人の男性1名と女性1名	学生が多い	学生向きの雰囲気ではなく、コーヒーやケーキの値段も高い。以前サークル活動で取材したときは店長が変わっていて、お昼営業のみになっていた。店内のランチはどれも素敵なので、その雰囲気を味わうために行くお店という感じ。1時間滞在したが、お客さんはなかった。 価格的には低くはないが、今出川通を歩いている気になるお店の一つだった。実際に入ってみると、落ち着く雰囲気ではっきりと出来る。お客さんは、学生さんは、学生さんのグループとサラリーマン、OLの方とさまざまだった。注文してから料理が出てくるまで、そんなに待たなくても良い。
5	陽燈館	2013/5/30 14:00～15:00	30代女性1人	学生の方が少ない	今出川通に面しているで、認知度は高いと思うが、なかなか行ったことがある友人に出会わなかった。ランチは、セツインのサラダとスープが凝っていて、美味しかった。学生で溢れかえっているわけではなく、近所の方も来店されていた。注文してから食事が出てくるまでは、結構時間がかかる。 居酒屋さんのおよに見えるが実はランチもやっている、それは安く美味しいと友達にすすめられて行った。揚げ物の定食が人気で、同志社大学生と教授のグループ、サラリーマンが来店していた。男性客が多いイメージの定食屋という雰囲気のお店だ。
6	Cafe kozora	2013/5/23 20:30～23:00	30代夫婦	学生客も一般客も同じくらい	
8	シルエツカ カフェ	2013/7/22 12:00～13:10	30代男性と20代女性	学生客も一般客も同じくらい	
9	らくろう	2013/11/7 12:30～13:30	50代の女性、30代の男性(親子?)	学生客も一般客も同じくらい	
10	AMUCA	2013/10/18 18:00～19:30	30代前半の夫婦(2人)	学生が多い	新町キャンパスと室町キャンパスの間にあるため、前を通る学生は多いが、おしゃやかな雰囲気とガラス窓で外から見ると入りにくい雰囲気は多少あるかもしれない。カレーやピーナッツ、コーヒーという喫茶店メニューが美味しい。注文してから食事が出てくるのも遅くないので、昼休みに行くことができる。

表4 フィールド調査の結果②各飲食店の観察結果 11～19

番号	店名	調査日時	店主/従業員	学生の割合	観察内容
11	ひつじ堂カフェ	2013/6/20 13:00～15:00	30代前半の夫 婦(2人)	学生が多い	おしゃやかな雰囲気でお客さんが多く、お店は半地下にあるが、価格が安いこともあり入りやすい。お昼を少し過ぎていたが、お客さんは3組。学生グループ(4人)とカップル、OLさんが1人。注文してから食事が出てくるまでは少し時間がかかるが、メニューを先に持って来てくれる。女性客が多いのかと思っていたが、学生の男性グループも途中で来店してきたので、男女問わず学生が多いカフェ。
12	樹々丸	2013/11/21 12:00～14:00	30代前半の夫 婦(2人)	学生が多い	ちゃぶ台と植物の和風なカフェである。場所が分かりにくいのが、新町キャンパスの女子学生には有名なものではなけれど、お客さんは女性が多く、学生2人組と近所の方が1人だった。ランチは、体に良さそうなものでつづられていて、和食を食べたいときにはびびりである。また、ボリュームもある。
13	河村食堂	2013/7/12 12:15～13:30	30～40代男性 2人	学生客も一般 客も同じくらい	出てくるのはすし選いが、パスタやサラダは本格的で美味しい。場所は少しわかりにくいのが同志社からは歩いて5～10分ほどなので、一度行くことで通ってしまえばいい。夜はワインやイタリアンを低価格で楽しめる、気軽な食堂というイメージのお店である。
14	SWING STREET CAFE	2013/10/6 12:30～14:00	40～50代の夫 婦(2人)	学生が少ない	12時半に来店。一人の女性客が2組。年は中年。共にランチセットを注文。その後、学生カップルが1組来店し、デザートと飲み物を注文。注文してから、食事が出てくるまでは比較的早い。ボリュームは値段に対して、同等の量。ドリンクセットなので、食べ終わったあとでも本を読んだり、話したりゆとりを感じる人が多い。店内はジャズが流れ、ピアノもある。メニューがレビューサイトと、細かいところまでこだわっている。
16	イノテカフェ	2013/7/13 18:00～20:00	30代女性/ フードビル	学生が少ない	新町キャンパスから徒歩15分ほどかかるので少し遠いが、町家を改装した店内は落ち着いた雰囲気、店長のフードビルがとても可愛い。フードビルに会いに来ている常連客の姿も見受けられた。
15	イヤサカ食堂	2013/8/24 12:00～13:00	30代男性ひろ ち	学生が少ない	今出川校地からは少し遠く、歩く15分強かかり、場所も分かりにくいのが、ランチはとも美味しくて、デザート付。町家を改装していて、以前はランチのリストランチだったため、おしゃやかな雰囲気も漂っている。昼休み中に行くと帰ってくることは難しいが、ゆとりと時間があるときに行くとも世界に行きたみたいにつづりることができる。
17	立ち呑みカフェ CLOVER	2013/10/28 12:15～13:00	40代男性と20 代男性	学生客も一般 客も同じくらい	近くのサラリーマンと30代の女性1人。いずれもランチでカレーを注文。カレーはすぐに出てくる。店頭で「立ち飲みカフェ」と書かれていることから入りやすい雰囲気がある。
18	Social Kitchen (café haco)	2013/9/14 13:00～15:00	20代女性2人	学生が少ない	ランチを食べに来た男性客が2人。両方、店長の知り合いだった。ご飯は、ボリュームはあまりないが、体にいいものを使っている。雑誌やフライヤーなどが多く置いてある。社会的なイベントスペースとして使われていることもあり、その情報が集まっている。
19	ひなた	2013/7/26 13:00～14:00	30代夫婦	学生が多い	オーブンしてしばらくはお客さんがなく、ランチにしては少し値段が高いメニューだったので敬遠していたが、夏前くらいから学生の姿をよく見るようになった。お店は新しいが、家庭的な雰囲気も漂っていて入りやすい。パスタはボリュームもあり、美味しい。サービスをしている奥さんがとても笑顔で話してくださるため元気がでる。

3.2 フィールド調査の考察

まずは表 1 から読み取れることを述べていく。開業時期は均等に分かれており、どの時期にも個人経営の飲食店が出来ていることがわかる。しかし、この開店時期によってお店の雰囲気は大きく異なった。開店時期が A の飲食店は、昔ながらの食堂や喫茶店という雰囲気があり、通りがかりでは入りにくい印象があった。しかし、同志社大学生をターゲットしているだけあり、値段が安い、量が多い、注文してから食事が出てくるのが早いという特徴があった。開店時期が B の飲食店は、おしゃれなカフェというイメージの店舗が多く、女性客が多かった。学生客も多いだろうが、普段から使うという感じではなく、たまに贅沢しにいくという感じであった。開店時期が C の飲食店は、それぞれコンセプトが明確なお店が多いという印象を受けた。いわゆるカフェと呼ばれる飲食店は B の時期にできたために、オリジナリティのあるお店を開こうとする人が多いのではないかと考えられる。

このフィールドワークのデータから、次の調査であるインタビューを行う対象として、6 店を選んだ。1) モナミ、4) タイレストランイーサン、6) café kozora、10) AMUCA、17) 立ち呑みカフェ CLOVER、19) ひなた、の 6 店である。

6 店を選んだ理由としては、主に「開店時期」「所在地」「学生客の割合」「お店の雰囲気」に着目した。開店時期に関しては、A から 2 店、B から 2 店、C から 2 店である。所在地に関しては、大学から 5 分以上歩くと遠いと感じたことや、A、C、D、G エリアの飲食店には、あまり同志社大学生の存在を感じなかったことから、B、F、H のエリアから選んでいる。また、学生の割合とお店の雰囲気に関しては、学生の間で有名な飲食店と学生客はそんなに多くないが魅力を感じられた飲食店を選んだ。フィールドワークを通して気づいたことは、個人経営の飲食店にはそれぞれに意図や思いが込められているということである。メニュー、価格、店内の様子、広報手段、サービス、新規客やリピーター客獲得のための工夫など、それぞれ異なる。その一つひとつはとても興味深いものではあるが、本論文では上記のことを考慮して選んだ 6 店を、第 4 章のインタビュー調査によって詳しく掘り下げていくことで、課題である同志社大学生が今出川校地に約 8000 人増加したことによる影響を分析していきたい。

第 4 章 インタビュー調査の結果と考察

4.1 インタビュー調査の結果

この節では、第 3 章のフィールドワークから選んだ、1) モナミ、4) タイレストランイーサン、6) café kozora、10) AMUCA、17) 立ち呑みカフェ CLOVER、19) ひなた、の 6 店のインタビュー結果について記述する。主な質問項目は、A. 開店の動機と位置決定理由、B. お店のコンセプトやこだわり、C. 客層とその特徴、D. 広報やサービス、E. 同志社大学生との関わり、F. 今出川校地への同志社大学文系学部移転に伴う影響、G. 今出川通に建設された大手飲食チェーン店を含

む商業施設の影響、である。

(1) 1) 「モナミ」へのインタビュー結果

開店の動機と位置決定理由は、50年以上前から続くお店であり、インタビューに応じてくださった今の店長は創業者の娘さんである。生まれる前から「モナミ」はあり、ご両親はすでに亡くなっているため、詳しい理由は分からないが、この場所にもともと住んでいたからではないかということだった。

次に、お店のコンセプトやこだわりについて伺ったところ、「昔から洋食屋さんだったので、その味を守ってきている。オムライスは、50年前からやっている。価格はその時代によって異なるが、学生さんも気軽に来られるように安くしていて、値段のわりに量が多いと感じてもらえるようにしている。そして、何より美味しいものを食べてほしいという思いがある」ということであった。

客層とその特徴については、学生客と一般客とは同じ割合くらいである。学生客は、一人客よりもグループ客が多く、男女比は男性の方が少し多い。同志社大学の教授だと思われる人が、珈琲を飲みにくることも多い。OBの方の来店は多い。同志社の近くに来る機会があると「懐かしい」と言って訪れる。一般客は、近所の人や通りがかりの人で一人客も多い。半分くらいはリピーター客で、一般客よりも学生のリピーター客が多い。

広報やサービスは、お店側から行っていることは一切なく、電話帳にも載っていない。TV番組「嵐にしやがれ」で俳優の生瀬勝久さんに紹介してもらったのも、同志社大学発行のフリーペーパー「イマ*イチ」に取材してもらったのも、向こうから言ってくれたからである。twitterのアカウント (@mon_ami_imade) で、モナミの情報が写真付で毎日ツイートされているものがあるが、これはお店の人が更新しているのではなく、去年卒業した同志社大学 OGの方が好意でやってくれているらしい。

次に、同志社大学生との関わりについて伺った。昔から変わらず、よく来てくれて顔見知りになった学生とは話をする。音楽をやっている学生が、ライブの告知をしたいと言ってチラシを持ってきたり、実際にそのライブを観に行ったりという交流もある。卒業後に、学生のときに仲の良かったグループで同窓会のように、モナミに集合して「おばちゃん会いに来たよ」と言ってくれることもある。その中でも卒業したお客さんが「おばちゃんの代わりに宣伝したげるわ」と言って、Twitterのアカウントを運用している。

今出川校地への同志社大学文系学部移転に伴う影響については、わずかに学生は増えたが、ほとんど増えていないようだ。むしろ、地下鉄の駅から直接キャンパスに入れることで人通りが減ったと感じる。北隣に「つけ麺マン」ができたため、そちらにはお客さんが入っていて行列が出来るくらいだが、「モナミ」までは流れてこない。先日、学生客に「つけ麺屋の隣という名前にした方が流行るよ」と言われた。

今出川通に建設された大手飲食チェーン店を含む商業施設の影響について尋ねると、烏丸今

出川の交差点方面に学生が流れていると感じるということであった。烏丸通の特に西側は、人通りが減った。「モナミ」は、北にも「カレーハウス CoCo 壺番屋」、「つけ麺マン」があるので、谷底の用にお客さんが来ない。今出川通のお店は、個人のお店でも流行っているのではないかと。店長個人は、チェーン店は安いけれど美味しいというイメージはないが、最近のお客さんの会話の中に、「ここでお店やっていると知らなかった」や「一人では入りにくい」という声もあったため、学生はチェーン店の方がいいのかなと思っている。

以前の京田辺キャンパスが出来たときは、明らかに変化が分かるくらい学生客が減ったが、その後 2005 年に新町キャンパスに学生が戻ってきたときは気がつかないほど変化はなかった。また、昔はお昼どきからお茶の時間、夜ご飯までお客さんが途切れずに来ていたが、最近はお昼のピーク時(12時～13時)を過ぎるとほとんどお客さんが来ない。それは、5～10年ほど前からである。烏丸今出川付近のパチンコや麻雀、ビリヤード場などで遊んだり、喫茶店で煙草と珈琲をだらだらと楽しんだりという空き時間の過ごし方を、今の学生がしなくなったからではないかと思う。時間つぶしはスマートフォンでゲームして、飲み物は生協やコンビニで買って学内で過ごすのだろうと思っている。昔は夜中の 10 時や 11 時までお店を開けていて、部活動終わりの学生がよく訪れたが今はそれもないため、11:00～19:00 くらいで営業している。

(2) 4 「タイレストラン イーサン」へのインタビュー結果

開店の動機と位置決定理由については、もともと 3 代飲食店であり、「タイレストラン イーサン」は 3 代目のお店である。初代は、同志社大学の学食として、今の場所で飲食店をしていた。その後喫茶店となり、約 20 年前にタイレストランになった。その理由は、オーナーがタイでボランティアを行っていて、少しでも活動資金になればという思いがあったからだ。初代店長は、同志社大学の卒業生だった。当時は、京都にタイ料理屋は 1.2 軒しかなく、また京都ではニンニクを使った料理は絶対に当たらないと言われていたので、周りにもとても反対された。しかし、実際にオープンしてからは、珍しかったからか県外からわざわざ来てくれる方や、御所の拝観のときに必ず来てくれる方が増え、徐々に人気が出てきた。

お店のコンセプトやこだわりについては、「京都で一番のタイ料理屋さん」がコンセプトである。タイ人のコックさんに住み込みで働いてもらっている。本場に限りなく近いお料理を出して、その料理を好きな人に来てもらうというのがモットーである。タイ料理は好き嫌いがある料理だが、出来るだけ多くの人の味覚に合うようにとメニューの種類はとても豊富にしている。

客層とその特徴としては、学生客と一般客では、4:6 で一般客の方が多い。学生客の特徴としては、留学生がとても多いことである。タイ、中国など東南アジアからの留学生が圧倒的に多い。日本人の学生では、同志社大学生に限らず、京都大学、立命館大学などから来たお客さんもいる。同志社大学 OB の方も来られる。一般客の客層としては、近所の方の他、御所の拝観に合わせてオープンからずっと来てくださっている常連さんなど遠方からのお客さまもいる。8 割はリピーター客である。

基本的に、宣伝広告費は一切使っていない。今年、宴会場をあたらしく作ったので、その宣伝をしようとウェブサイトのリニューアルを行った。宣伝広告を積極的には行わない理由は、新規客で溢れさせることは目的としていないこと、店舗を増やすつもりがないためである。

同志社大学生との関わりについて尋ねると、基本的には飲食店とお客という関係であるということであった。ただ、留学生の常連客の中には、帰国の前に挨拶に来てくれる人もいた。学生アルバイトも雇っていて、学生と主婦の方と半々くらいの割合で勤務している。昔から、同志社大学生はアルバイトをしてくれていたようだ。最近では、学校が近すぎて知り合いが来店するのが嫌などの理由で、同志社大学生は少ない。立命館大学生のアルバイトは2人いる。

今出川校地への同志社大学文系学部移転に伴って、特に大きく変わったことはない。今年からあたらしく宴会場を作ったが、それは多少ではあるが同志社大学生が今出川に増加することを見込んでのことだった。同志社大学の教授の集まりにはすでに使ってもらっていて、これから学生（主に留学生）に使ってもらいたいと思っている。客数は、2013年10月からは昨年比で増加傾向にあるので、これから徐々に学生客が増えるかもしれないと期待している。

今出川通に建設された大手飲食チェーン店を含む商業施設の影響は、少しはあった。2012年12月は客数が減ったが、その後3ヶ月ほどでもとに戻ったのでそれほど影響はない。タイ料理ということで、チェーン店では食べられないものなので、今出川通に面しているため、商業施設を訪れる人も含めた人通りの増加は、目に見えて分かった。最近の学生客の声として、「まだまだ今出川にはご飯を食べられるところが少ない」というものがあった。

(3) 6 「cafe kozora」へのインタビュー結果

開店の動機は、旦那さんがずっと大手のイタリアンで働いていて、いつか独立してお店を持ちたいと思っていた。3年前にその夢を叶えるために仕事を辞めて、物件を探し始める。お店の場所をここに決めた理由は、京都で、大学が近く、区役所も近く、交通の便もよく、2人で運営するので広すぎない店舗を探していたところぴったりのところが見つかった場所を決めた。2人で飲食店をするのはなかなか大変なので、夫婦に子どもがいないから出来ていると感ずることがある。

「ゆっくりとできる居心地の良い場所」がコンセプトである。そのため、椅子に低反発のクッションを置いたり、ソファ席をつくったりという工夫をしている。ソファ席では寝てしまってお客さまもいるくらい気持ちがいい。オープンの前にたくさんのカフェをまわって、雰囲気だけではなく味もしっかりと美味しいお店にしようと決めた。内装なども、そのときに見たものをいいとこ取りにして決めていった。ターゲットは学生と、女性の特にOLさんと設定している。

客層は、今は、7:3の割合で学生客の方が多いが、今出川校地への移転までは学生客と一般客が5:5の割合だった。学生客では女性がほとんどを占めている。人数は、一人でもカップルでもグループでも歓迎している。ランチタイムとディナータイムではランチタイムの方が客数は

多い。席数が14席なので、満席でお断りすることも多い。他店では、学生は一人当たりの客単価が低いと言われるがそんなことはなく、ランチでもデザートドリンクまですべて注文してもらえることが多い。ご飯を食べに来るだけというよりは、ゆっくり時間を過ごしにきてもらえている。お客さんの平均滞在時間は1時間~1時間半である。一般客は、女性のお客さまがほとんどでその年齢層は幅広い。上京区役所が向かい側（今出川通北側）にあったときは、OLさんも多かった。また同志社大学継嗣館が近いため、プールに行った帰りにご近所の主婦の方が良く来てくれる。ファミリー客も多く、子どもが店内をうろうろしているという光景も見られる。新規客とリピーター客では、リピーター客の方が多い。学生客でも週2回くらい来てくれる常連さんもいる。

広報は、facebook ページ（いいね！41）、アメーバブログの更新、google マップへの表示などを行っている。同志社大学広告研究会発行のフリーペーパー『yummy!』、EVE パンフレット、新町祭への広告協賛を行っている。2014年1月からはホットペッパーにも広告を出す予定である。同志社大学広告研究会発行のフリーペーパー『yummy!』には、クーポンを付けている。

同志社大学生との関わりは、主に広告協賛である。広告協賛をするということで学生を応援できるのなら、応援したいという気持ちがあり、オープン時から広告協賛を続けている。「yummy!」を見て来てくださるお客さんもいる。オープンのときから来てくれている常連の学生は、去年の卒業のときに挨拶にきてくれた。顔見知りになると挨拶をしたりするが、こちらから積極的に話しかけることはない。広告協賛をしている団体の学生とはお話する機会がある。オープンのときから、ゼミで教授もいっしょに使ってくれているところがある。

今出川校地への同志社大学文系学部移転に伴う影響について尋ねたところ、いい影響がはっきりとあるという返事だった。客数の増加がまず挙げられる。学生客の割合が5割から7割に増加した。これには、向かいの上京区役所の移転したことも関係していると思われるが、学生客が増えたという印象が強い。また2013年4月からは、ランチセットの変更を行っている。パスタ or ドリアとサラダのセットに、プラス100円でスープ、プラス200円でデザートが付けられる。パンのセットもある。このメニューの仕組みによって、長居してくれるお客さんが頼んでくれるようになった。

今出川通に建設された大手飲食チェーン店を含む商業施設の影響については、少しはあった。2012年の12月にオープンしたときは、学生客は少し減ったが、1月からはそれほど影響はなかった。それよりも、4月から学生客数が増えたという影響の方が印象に残っている。

通学路が一時期、今出川通沿いを通してしか今出川キャンパスに行けないという時期は、割と人通りも多く、それによって認知度があがったが、今はそれも変わったみたいなので、人通りはあまりない。夜は目立つが、お昼は入りにくいとの声もある。そのためSNS（facebook ページ）の広報もはじめている。来年の12月には、区役所が戻ってくるので、そこからどういふ変化があるかが楽しみである。お客さんのバランスは今の、学生7割その他3割でいい感じだと思っている。これからも続けていくので、学生との関わりも持ちつつ工夫していきたい。

(4) 10 「AMUCA」へのインタビュー結果

開店の動機と位置決定理由については、もともと飲食関係だった奥さんをご主人が手伝うかたちでお店をオープンすることになり、物件を探していたところ、ちょうどよい場所が見つかったので決めた。上京区と決めて物件を探していた訳ではないが、同志社大学も近いので良かったという感じだった。4年前のオープン当時から、2013年の今出川校地の文系学部移転については耳にしていた。学生が増え、雰囲気が変わるだろうということは予想していた。

お店のコンセプトは「喫茶店」。カフェというよりは、日常的に利用できる喫茶店というイメージのお店にしたいという思いがあった。なので、スタンダードなものをきっちりと作っている。

客層とその特徴については、平日は学生客が、土日は一般客とくに近所の方が多い。学生客は、一人客もグループ客もいる。男女比では女性客がほとんどで、楽器ケースを持ってくる学生が多い。ランチを食べにくる学生が多く、平均滞在時間は1時間ほどである。一方で、近所の方はランチの時間には学生が多いため、その時間帯以外の夕方以降や土日に来られることが多い。若い夫婦のファミリー客が多く、中でも小さい子どもがお店を気に入ってくれて、行きたいと言ってくれることがある。新規客よりは、リピーター客が多い。

広報やサービスについては、yahoo ブログのみ、日々更新している。雑誌に取材してもらったときは、それを見て来てくれるお客さんもいる。

同志社大学生との関わりは、飲食店と客の関係として接することがほとんどである。顔見知りのお客さんとはあいさつをしたり、お話をしたりする。去年、同志社大学広告研究会が制作している今出川の地域発信誌「イマ*イチ」の取材を受けた。

今出川校地への同志社大学文系学部移転に伴う影響については、ほとんどなかったと感じている。最近になって少しずつ学生のお客さんが増えてきた。噂では、今出川付近はどうにもならないくらい学生で溢れるのではないかと聞いていたので、その期待とはまったく異なり、約1年経ってようやくゆっくりと客数が増えてきたという感じである。

今出川通に建設された大手飲食チェーン店を含む商業施設の影響についても、そんなに感じなかった。商業施設が出来たことによって、学生客が減ったということはない。チェーン店だけではなく、カフェなどもあたらしく出来たので、お店が増えたという印象がある。

同志社大学の学生に対して感じることとして、比較的マナーなどがしっかりしているお育ちのいい子が多いという印象がある。それは、今年学生数が増えても変わらない。学生数が増えたことによって、もっと大きく変化があるかと思っていたけれど、意外と影響は少なかった。(私が文系学部の移転で増えたのは1、2回生だと聞いて)自分の学生時代を思い出すと、なかなか個人経営の店に行く勇気はなかったから、今年から入学した子が2年後くらいにお客さんとして定着してくれたらいいと思う。場所が分かりにくく、最近では通学路の変化で店の前を通る人も少し減ったので、学生さんに場所を知ってほしいという気持ちはある。

(5) 17) 「立ち呑みカフェ CLOVER」へのインタビュー結果

T店長は同志社大学商学部出身で学生時代海外を旅し、その後ヨーロッパで8年働いたあと、日本のいくつかの大学から客員教授にならないかという誘いを受ける。学生時代にお世話になった学生支援課の人がきっかけで、同志社大学京田辺キャンパスの職員として5年働く。学生の悩みを聞き、アドバイスをする日々を送ったのち、自分で場所を持つと思い独立。形態は飲食店でなくてもよかったが、共にお店をやろうという人が珈琲好きのために飲食店に決めた。場所は、自分がお世話になった同志社大学の近くにしよう、学生のために何かしようと考えていた。T店長は、今出川キャンパスで4年間過ごした最後の世代である。閉店してしまった「わびすけ」のような、地域と学生がつながる場所をつくりたいと考えている。近所のファミリー客も学生客も同じ空間にいて、交流が生まれるような場所である。意外と今出川にはないと感じていた。お店の場所は、前は有名な中華料理屋さんだった。大家さんとはじめは揉めたが、大家さんの会社の部下が経費で飲みに来てくれるなど、関係性は良好である。

お店のコンセプトは主に3つある。①お客さん同士が会話し、関係を築ける場所。②地域の人と学生が関わりを持つ場所。③体にいいものしか出さないお店。この3つである。

①普通のカフェだと店員はサービスに徹する。しかし、カウンターで立ち飲みにすると、店長と顔を合わせるので店長と会話することが多くなる。するとその話を聞いていた他のお客さんが会話に入りやすく、そこで共通の話題ができると盛りあがる。それを付加価値としている。

②地域の人にも来てほしいという思いから、立ち飲み屋としてだけではなく、手づくりのスイーツをつくって店頭で販売し、ケーキ屋さんとしての一面も持つ。小学生がじっとショーケースを見て、お母さんと買いにきてくれたときに「これがいい!」と言ってくれると嬉しい。サラリーマンがお昼や夜に一人または同僚と飲みにきてくれることもある。また、地域のカフェや喫茶店ではめずらしく、町内会にも参加している。町内会のお手伝いをしていると町内の人が来てくれる、そういう関係をつくっている。

③これは、特に中高年の方に家庭料理と同じ安心感を感じてほしいという思いから。産地が分かるもの、自分の娘に毎日食べさせてもいいものを、と思っている。例えば、ケーキでは後輩が広島でやっている牧草で育てた牛のミルクでできたクリームを使っていたり、水は京都の伏流水だったりとこだわりが強い。すべてのメニューが手づくりである。

客層は、学生客と一般客では、4:6で一般客の方が多い。学生客は、2~3人のグループ客が多く、男女比は同じくらいである。最近手づくりケーキをはじめとするスイーツを売り出しているため、女子大学生のグループが来ることも増えた。一般客は、店長の知り合いや、近所の方(町内の方)が中心である。新規客も来るが、ほとんどがリピーター客。一度来店してくれるとほぼ必ずリピーターになる。

ウェブサイト、アメーバブログ、facebook ページ(186 いいね!)で広報を行っている。チェックインするとサービスも行っていて、今までのチェックイン数は16である。

同志社大学生との関わりは、最近増えてきた。立ち呑み屋であるため、カウンター席のみで

あり、お客さんはすべてカウンター内の T 店長の方を向いて座ることから、会話が生まれることが多い。その中でも特に学生とは、学生の悩み相談を T 店長が聞くという関わり方が多い。就職活動相談や恋愛相談が多い。店長は、アドバイスをするのももちろん、本人が考えられるようなヒントを与えようと心がけているそう。また、朝から烏丸今出川の交差点付近でチラシ配りをしようかと考えていて、学生アルバイトを募集する予定である。飲食店と学生という枠を超えた関係をつくっていくことで、学生のお客さんを増やしていこうと考えている。

今出川校地への同志社大学文系学部移転に伴う影響については、4 月から目立って学生客が増えたということはないが、サービス内容を変化させて、女子学生が来店しやすいように工夫をした。立ち飲み cafe としてスイーツの展開を増加させていこうと考えている。

今出川通に建設された大手飲食チェーン店を含む商業施設のことは、とても意識している。学生をターゲットと設定したとき、競合として「やよい軒」や「サイゼリア」などを意識している。しかし、チェーン店に対して期待する安くておなかがいっぱいになればいい、というだけではなく、体にいいものを食べることを知ってもらおうとしている。また、ご飯を食べる場所としては対抗できないということで、女子大生をターゲットにケーキ屋さんとしての一面を強化しようとしている。

実際にインタビューしている途中に、同志社大学 3 回生の男子学生が来店した。一時期は週 1 回来ていたという常連の学生は、店長を「マスター」と呼び、尊敬の念を抱いていた。はじめて来店したのは、ふらりと立ち寄ったそうだが、そのときに立ち上げようとしていたサークルの話を T 店長にしたところ、それをきっかけにさまざまな相談をするようになったという。その日は、春休みに企画している海外ツアーの話をしてしていたが、その企画に関わるようになったきっかけは、その企画の責任者と「立ち呑みカフェ CLOVER」で出会ったことだ。相談の内容は、その企画の集客を効果的に行う方法だったが店長が伝えた答えは、日々の生活のことや何のために今何をするのかという概念的なことだった。これこそ学生が相談に来る理由だと思った。

(6) 19) 「ひなた」へのインタビュー結果

開店の動機と位置決定理由については、もともと飲食経験があり、独立してイタリアンではなくパスタ専門店を開こうと思っていた。大通りから一本入った路地に店を構えたいと思っていた。京都で物件を探していて、たまたま烏丸通と今出川通から一本入ったところに物件があり、この場所に決めた。移転のことはもちろん、同志社大学新町キャンパスのことさえ知らず、物件を決めてから分かった。

「和風創作パスタのお店」というコンセプトである。お客さまにほっこりしていただくというのがテーマで、食材にもこだわりを持っていて、自家製のベーコンやスイーツを提供している。

客層は、学生客と一般客は、7:3 で学生の方が多い。学生客は、一人客ではなく 2 人以上のグ

グループ客が圧倒的に多い。女性客がほとんどで、女性中心のグループに男性が混ざっているという程度である。ランチとディナーでは、ランチタイムの利用が多い。カフェ利用もほとんどなく、お客さんのほぼ全員がパスタを食べる。そのため、15時～17時半は close にしている。新規客とリピーター客は同じくらいの割合である。今は1ヶ月に約800人のお客さんが来て、そのうち100円割引券（店内でしか配布していない割引券）を使ってくれた人がのべ300人。100円券を使わなくてもリピーターである人は多く、約半分はリピーター。よく通ってくれる人は、週に2.3回来てくれる人がいる。

広報としては、レジにてクーポン券（100円引）の配布を行っているほか、twitterの更新を行っている。

同志社大学生との関わりとしては、経済学部の中靖人ゼミのプロジェクト「smart」が大きい。ゼミの学生たちが、マーケティング・企画・広報の手伝いをしている。夜ランチ企画をはじめとするコンサルティングや、twitterアカウント制作し更新を行っている。詳しくは、中靖人ゼミの方にインタビューを行ったので、のちほど考察の中で紹介する。

今出川校地への同志社大学文系学部移転に伴う影響については、移転後に「ひなた」がオープンしたので比較は出来ないが、徐々に学生客が増えている。

今出川通に建設された大手飲食チェーン店を含む商業施設のことは、気になっているが、「ひなた」のオープンの方が後のため、お客さんへの影響は分からない。

オープン当初は学生には値段が高いという印象があったせいか、あまり学生客がこなかったが、最近はランチタイムに満席になるほどになっている。同志社大学生との関わりとして、経済学部の中靖人ゼミとの関係性も続けながら、これからも学生客が増えてほしいと考えている。

4.2 インタビュー調査の考察

上記のインタビューをまとめたものが表5～表7である。店舗の新しい順に並べている。

表5 インタビュー結果のまとめ（校地移転後に開店）

ヒなた	開店年	影響の有無	影響の内容	大手チェーン店の影響	所在地	開店の動機と立地選択理由	フットセラ、こだわり	学生と一般人の割合	学生と一般人の割合	学生と一般人の割合	一般客の特徴	新規リピーターの割合	広報、サービスの展開	同志社大学生との関わり	その他
立ち寄りカフェCLOVER	2013/5/1	△	自立的に学生が増えて、学生が来てくれる。カプチーノやスムージーを頼む学生も増えている。女子学生が来店し、スムージーやスムージーを頼む学生も増えている。女子学生が来店し、スムージーやスムージーを頼む学生も増えている。	学生ターゲットと考えると、親合として「やよひ」や「セブイレ」などがあるが、自分たちだけでは対応が難しい。スムージーやスムージーを頼む学生も増えている。	今出川。立寄りの駅は、今出川駅。カプチーノやスムージーを頼む学生も増えている。	近頃は飲食店だけでなく、人が通るようになった。飲食店だけでなく、人が通るようになった。飲食店だけでなく、人が通るようになった。	①お客さん自身が来店し、関係性を築ける。②地場の活性化。③学生と一般人の交流。④自分たちだけの店。	7:31(学生)の人が多く、一般の人が少ない。	2-3人が多い。男女比は男女ほぼ同数。近頃は女性が増えている。学生と一般人の割合が増えている。	一般客は、店の雰囲気や、店員さんの接客態度が重要。理由として、①サービスが良いこと。②価格が安いこと。③メニューが豊富であること。	新規リピーターは、約15%。これは、1ヶ月以内にまた来店する人々である。	FacebookやTwitterで、学生と一般人の交流を促進している。学生と一般人の交流を促進している。	同志社大学生との関わりは、主に学生が来店する。同志社大学生との関わりは、主に学生が来店する。	オープン当初は学生には馴染みがなかったが、近頃は学生も来店するようになった。オープン当初は学生には馴染みがなかったが、近頃は学生も来店するようになった。	

表6 インタビュー結果のまとめ（校地移転前に開店）

AMUCA	開店年	影響の有無	影響の内容	大手チェーン店の影響	所在地	開店の動機と位置決定理由	コンセプト、こだわり	学生と一般人の割合	学生客の特徴（男女比、個人/グループ）	一般客の特徴（男女比、個人/グループ）	新規/リピーターの割合	広報、サイト	同志社大学生との関わり	その他
AMUCA	2010年	△	最近になって少しずつお客さんが増えた。増えなかったら、もういないからと聞いているので、その期待とはまったく違う。1年経つてようやく増えてきたという感じ。	チェーン店が出たことによりお客さんが減った。チェーン店を始めてから、お客さんが減ったという印象がある。	堂町上立売南（新町）キヤンパスの隣	店をどこで開くかという点で、奥さんご自身が学生時代に利用していた場所が良かった。その中で、奥さんが探していた場所ではないが、同志社大学に近い場所が良かった。4年前のオープン当時から、2013年の移転については奥さんが探していた場所が良かった。これは予想していた。	カフェというよりは、日常的に利用している場所が良かった。奥さんが探していた場所ではないが、同志社大学に近い場所が良かった。4年前のオープン当時から、2013年の移転については奥さんが探していた。	5:5（平日は学生が、土日は近所の方が多）	学生は、1人の学生が多い。個人客が多い。男女比、個人客が多い。	近所の方は、学生が多い。学生が多い。学生が多い。学生が多い。	リピーターの方が多い。	yahoo!ブログのみ、雑誌に取材しても取ったときは、それを整理してお客さんにも見せる。学生は、お客さんにも見せる。学生は、お客さんにも見せる。	お客さんとして接客することを知りたい。お客さんとして接客することを知りたい。お客さんとして接客することを知りたい。	同志社大学の学生に対しては、比較的に多いイメージがある。それは、今年学生数が増えたことによる。お客さんが増えたことによる。お客さんが増えたことによる。
cafe kozora	2011/7/7	○	客数の増加（学生のお客さんの割合が増えた）。これは、向かいの区役所が移転したことが関係している。お客さんが増えた。お客さんが増えた。お客さんが増えた。	2012年の12月にオープンしたときは、お客さんがほとんど移転はなかった。それが、1月からお客さんが増えたという方向が大きい。	今出川通り沿い（新町）今出川（南東）	旦那さんがずっと大手のブライダルで働いていて、旦那さんが探していた場所が良かった。旦那さんが探していた場所が良かった。旦那さんが探していた場所が良かった。	美味しくて、メニューのバリエーションが豊富。お客さんが増えた。お客さんが増えた。お客さんが増えた。	7:3（学生の方が多）	男女比では、女性が多い。個人客が多い。男女比、個人客が多い。	年齢層は幅広い。学生が多い。学生が多い。学生が多い。	新規とリピーターの割合は、ほぼ同じ。	facebook、LINE、twitter、ブログ、ホームページ、チラシ、ポスター、など。お客さんにも見せる。お客さんにも見せる。	広告を出すという点で、お客さんが増えた。お客さんが増えた。お客さんが増えた。	運送路が一時、今出川通り沿いに行かないという時期は、朝と夜が多かった。それは、お客さんが増えたことによる。お客さんが増えたことによる。

1. 全店舗に共通して見られた影響

6 店舗へのインタビューを通して、仮説として立てていた「学生客数の増加」は、あまり見られなかったことが分かった。その理由として、二つのことが考えられる。1) 大手チェーン店の人気、2) 学生のライフスタイルの変化と大学施設の充実、である。それぞれについて、詳しく述べていく。

1) 大手チェーン店の人気

表 8 大手チェーン店による影響の比較

開店年	影響の内容	大手チェーン店の影響	所在地
ひなた	2013/5/1 徐々に学生が増えている。	意識はしているが、「ひなた」のオープンの方が後のため、お客さんへの影響は分からない。	新町上立売北東(新町キャンパスすぐ)
立ち呑みカフェCLOVER	2013/2/28 目立って学生が増えたということはないが、サービス内容を変化させて、女子学生が来店しやすいように工夫をした。(立ち飲みcafeとしてスイーツの展開を増加)	学生ターゲットと考えたとき、競合として「やよい軒」や「サイゼリア」などを意識している。安くておながいといばいいとはいえない、というだけではなく、体にいいものを食べることを知ってもらおうとしているという話もあった。また、ご飯を食べる場所としては対抗できないということで、女子大生をターゲットにスイーツを多く展開している。	今出川通り沿い(烏丸今出川南西)
AMUCA	2010年 最近になって少しずつ学生のお客さんが増えてきた。噂では、どうにもならないくらい学生が溢れるのではないかと聞いていたので、その期待とはまったく異なり、約1年経ってようやく増えてきたという感じ。	チェーン店が出来たことによって、学生客が減ったということはないが、チェーン店を含めてカフェなども出来て、お店が増えたという印象がある。	室町上立売南西(新町キャンパスと室町キャンパスの間)
cafe kozora	2011/7/7 客数の増加(学生のお客さんの割合が5割から7割に増加。これには、向いの区役所が移転したことも関係していると思われるが、学生のお客さんが増えたという印象はある。)ランチセットの変更(2013年4月～)バスタードリアとサラダのセットに、プラス100円でスープ、プラス200円でデザートが付けられる。パンのセットもある。一長居してくれるお客さんが頼んでくれるようになった。	2012年の12月にオープンしたときは、お客さんが減ったが、1月からはそれほど影響はなかった。それよりも、4月からお客さんが増えたということの方が大きい。	今出川通り沿い(新町今出川南東)
タイレストランイーサン	1994年 特に変わったことはないが、今年から新たに宴会場を作った。教授の集まりにはすでに使ってもらっていて、これから学生(主に留学生)に使ってもらいたい。10月からは昨対を超えているので、これから増えることはあるかも。	2012年12月は客数が減ったが、3ヶ月ほどでもとに戻ったのでそれほど影響はない。人通りは目に見えて増えた。	今出川通り沿い(烏丸今出川北西)
モナミ	1960年頃(15年前に改装) わずかに学生は増えたが、ほとんど増えていない。むしろ、地下鉄の駅から直接キャンパスに入れることで人通りが減ったと感じる。隣に「つけ麺マン(ラーメンチェーン店)」ができたので、増えた学生はそちらへ行く。「つけ麺屋のとなり」という名前にした方が流行るよ、とお客さんに言われた。	烏丸今出川の交差点に学生は流れていると感じる。今出川通に大手チェーン店が出来たことで、人通りがまったく増えない。北にもココイチ、つけ麺マンがあるので。今出川通のお店は、個人のお店でも流行っているのでは?との話。ただ、お客さんの会話の中に、最近では「お店やっている」と知らなかったや「一人では入りにくいなあ」などの声もあって、学生さんはチェーン店の方がいいんじゃないかと思っている。	烏丸通り沿い(烏丸今出川北西)

今出川校地に通う学生が増加する前年の2012年12月に、烏丸今出川の交差点北西にファミリーレストランやカラオケなどが入った大型商業施設がオープンした。また、居酒屋チェーン店も2012年度に相次いで今出川店をオープンさせた。オープンしてすぐは、そちらに学生客が流れ、今出川通りに面している6)café kozora や4)タイレストランイーサンでは、学生客数が減った。しかし、3ヶ月ほどで徐々に回復したということであった。また、学生の流れが今出川通りに移ったという声があった。今出川通りに面している6)café kozora や4)タイレストランイーサンは、店の前の人通りは増えたと感じているのに対し、10)AMUCA や1)モナミではあまり変わらないということであった。これらから、大手チェーン店が出来たことで、増加した学生の多くはそちらに行っているものの、今出川通りへの学生の流れが新たに出来たことで、そこに店を構える店舗の認知度は上がったという影響があった。2013年春から約一年かけて、徐々に学生客が増えているということなので、今出川通りに面している店舗については、これから学生客の増加が考えられる。

2) 学生のライフスタイルの変化と大学施設の充実

同志社大学の京田辺校開設前から営業されている「モナミ」へのインタビューの中で、「烏丸今出川付近のパチンコや麻雀、ビリヤード場などで遊んだり、喫茶店で煙草と珈琲をだらだらと楽しんだりという空き時間の過ごし方を、今の学生がしなくなった」、「時間つぶしはスマートフォンでゲームして、飲み物は生協やコンビニで買って学内で過ごすのだろう」という話があった。確かに、お昼休みはまだ学外へ昼食を食べに行くことはあるが、授業の空き時間に学外で時間を潰そうとする文化はほとんどないと感じる。昔は、喫茶店でだらだらと時間を潰しながら、漫画を読んだりおしゃべりをしたりという文化があったが、それに変わって今はスマートフォンのゲームがその役割を果たしている。

また、今出川キャンパスに新しく出来た「良心館」には、食堂だけではなくコンビニやカフェも校舎内にあり、地下鉄とも連携しているため、より学生が学外に出にくくなったと考えられる。「良心館」の建物は新しいこともあり、綺麗でお洒落だと評判がよく、1階のカフェ・ラウンジスペースはいつも満席である。わざわざ学外に行かなくても、気分転換ができる施設ができていることも、学生客数の増加という影響が大きく現れなかった原因だと考えられる。そして、このような状況を地域の飲食店経営者は観察し、学生客数の増加という影響が少ない原因だと考えている。

2. それぞれの条件下での影響

1) 開店時期による影響のちがひ

- 開店時期によって見られた影響のちがひとして、増加する学生に対しての関わり方にちがひが見られた。

表 9 開店時期による影響の比較

開店年	影響の内容	大手チェーン店の影響	所在地
ひなた	2013/5/1 徐々に学生が増えている。	意識はしているが、「ひなた」のオープンの方が後のため、お客さんへの影響は分からない。	新町上立売北東(新町キャンパスすぐ)
立ち呑みカフェ CLOVER	2013/2/28 目立って学生が増えたということはないが、サービス内容を变化させて、女子学生が来店しやすいように工夫をした。(立ち飲みcafeとしてスイーツの展開を増加)	学生ターゲットと考えたとき、競合として「やよい軒」や「サイゼリア」などを意識している。安くておなががいっぱいになればいい、というだけではなく、体にいいものを食べることを知ってもらおうとしているという話もあった。また、ご飯を食べる場所としては対抗できないということで、女子大生をターゲットにスイーツを多く展開している。	今出川通り沿い(烏丸今出川南西)
AMUCA	2010年 最近になって少しずつ学生客が増加している。噂では、どうにもならないくらい学生が溢れるのではないかと聞いていたので、その期待とはまったく異なり、約1年経ってようやく増えてきたという感じ。	チェーン店が出来たことによって、学生客が減ったということはないが、チェーン店を含めてカフェなども出来て、お店が増えたという印象がある。	室町上立売南西(新町キャンパスと室町キャンパスの間)
café kozora	2011/7/7 客数の増加(学生のお客さんの割合が5割から7割に増加。これには、向いの区役所が移転したことも関係していると思われるが、学生のお客さんが増えたという印象はある。)ランチセットの変更(2013年4月～)パスタorドリアとサラダのセットに、プラス100円でスープ、プラス200円でデザートが付けられる。パンのセットもある。→長居してくれるお客さんが頼んでくれるようになった。	2012年の12月にオープンしたときは、お客さんが減ったが、1月からはそれほど影響はなかった。それよりも、4月からお客さんが増えたということの方が大きい。	今出川通り沿い(新町今出川南東)
タイレストランイーサン	1994年 特に変わったことはないが、今年から新たに宴会場を作った。教授の集まりにはすでに使ってもらっていて、これから学生(主に留学生)に使ってもらいたい。10月からは昨対を超えているので、これから増えることはあるかも。	2012年12月は客数が減ったが、3ヶ月ほどでもとに戻ったのでそれほど影響はない。人通りは目に見えて増えた。	今出川通り沿い(烏丸今出川北西)
モナミ	1960年頃(15年前に改装) 学生は、ほとんど増えていない。むしろ、地下鉄の駅から直接キャンパスに入れることで人通りが減ったと感じる。隣に「つけ麺マン(ラーメンチェーン店)」ができたので、増えた学生はそちらへ行く。「つけ麺屋のとなり」という名前にした方が流行るよ、とお客さんに言われた。	烏丸今出川の交差点に学生は流れていると感じる。今出川通に大手チェーン店が出来たことで、人通りがまったく増えない。北にもココイチ、つけ麺マンがあるので、今出川通のお店は、個人のお店でも流行っているのでは？との話。ただ、お客さんの会話の中に、最近「お店やっているの知らなかった」や「一人では入りにくいなあ」などの声もあって、学生さんはチェーン店の方がいいんやろうなと思っている。	烏丸通り沿い(烏丸今出川北西)

田辺校地開設以前から開店している店舗は、1)モナミと4)タイレストランイーサンである。両店舗とも常連客が多く、OBが今も足を運ぶという。田辺校地開設時は大幅に学生客が減ったが、それに対して今回の移転では増加は見られなかったということだった。今回の移転に伴って、新たに学生に向けて広報を行ったり、働きかけたりしたことは特になかった。

今出川校地移転前に開店した店舗は、6)café kozora と10)AMUCAである。両店舗ともに、予想していたほどには学生客は増えなかったということであったが、2013年の秋学期からは、増加傾向にあるという。6)café kozoraでは、今出川校地移転を意識して2014年4月にランチメニューを変更した。10)AMUCAは特に新たに行ったことはないが、どうすればもう少し通りがかりの学生に来てもらえるかを考えているという。田辺校地開設以前から開店している店舗に比べて、同志社大学生を意識している傾向が強かった。また、10)AMUCAのインタビューの中で、今回の移転によって増加した学生は1,2年次生であり、なかなか個人経営の飲食店に入る勇気がないのではないかという話があった。6)café kozora と10)AMUCAが両店舗ともに夏以降から徐々に学生客が増えたことから、今出川校地に通う学生数の増加に対し、学生客の増加がゆるやかであることの原因は、増加した学生が1,2年次生であることが考えられる。

今出川校地移転後に開店した店舗は、17)立ち呑みカフェ CLOVER と19)ひなたである。両店舗に共通していたのは、学生を意識してサービスを行っている点である。17)立ち呑みカフェ

CLOVER では、facebook のチェックインによるサービス、19) ひなたでは twitter によるサービスを行っており、これは他の時期に開店した店舗では見られない傾向であった。徐々に学生客が増えているという点では、今出川校地移転前に開店した店舗と同じである。

2) 学生との関わり方による影響のちがいがい

学生客の数が増えていると明言されたのは、6) café kozora、17) 立ち呑みカフェ CLOVER、19) ひなた、である。この 3 店舗には、共通点として学生との関わり方が、飲食店とお客さんにとどまっていなかったことが挙げられる。

表 10 学生への関わり方による影響の比較

	開店年	影響の内容	同志社大学生との関わり	広報、サービス	その他
café kozora	2011/7/7	客数の増加(学生のお客さんの割合が5割から7割に増加。これには、向いの区役所が移転したことも関係していると思われるが、学生のお客さんが増えたという印象はある。)ランチセットの変更(2013年4月～)パスタorドリアとサラダのセットに、プラス100円でスープ、プラス200円でデザートが付けられる。パンのセットもある。→長居してくれるお客さんが頼んでくれるようになった。	同志社大学広告研究会発行のフリーペーパー『yummy!』、EVEパンフレット、新町祭への広告協賛。広告を出すということで応援できるのなら、学生さんを応援したいという気持ちがあり、オープン時から広告協賛を続けている。yummy!を見て来てくださるお客さんもいる。オープンのときから来てくれている常連さんは、卒業のときに挨拶をしてくれたり、顔見知りになって挨拶をしたりはする。こちらから積極的に話しかけることはない。オープンのときから、ゼミで教授もいっしょに使ってくださるところがある。	facebookページ(いいね!41)、ブログ更新、googleマップへの表示。同志社大学広告研究会発行のフリーペーパー『yummy!』、EVEパンフレット、新町祭への広告協賛。2014年1月からはホットペッパーに広告。	通学路が一時期、今出川通沿いを通ってしか今出川キャンパスに行けないという時期は、割と人通りも多く、それによって認知度が上がったが、今はそれも変わったみたいなので、人通りはあまりない。夜は目立つが、お昼は入りにくいとの声もある。来年の12月には、区役所が戻ってくるので、そこからどういう変化があるかが楽しみなところ。お客さんのバランスは今の、学生7割その他3割でいい感じだと思っている。これからも続けていくので、学生との関わりも持ちつつ工夫していきたい。
立ち呑みカフェCLOVER	2013/2/28	目立って学生が増えたということはないが、サービス内容を変化させて、女子学生が来店しやすいように工夫をした。(立ち飲みcafeとしてスイーツの展開を増加)	学生とは悩み相談を聞くという関わり方がもっぱら多い。今の時期は就活相談、恋愛相談も多い。店長は、アドバイスをしてくれるのももちろん、本人が考えられるようなヒントを与えよう心がけているそう。朝に鳥丸今出川でチラシ配りをしようかと考えていて、それには学生アルバイトを募集する予定。そういう関係をつくっていくことで、学生のお客さんを増やそうかと考えている。	facebookでチェックインするとサービス(facebookページ186いいね!/チェックイン16)、ブログ更新	同志社大学3回生の男子学生が来店した。常連の学生で、店長を「マスター」と呼び、尊敬の念を抱いていた。はじめて来店したのは、ふらりと立ち寄ったそうだが、そのときに立ち上げようとしていたサークルの話を店長にして、それをきっかけにさまざまな相談をするようになったという。その日は、春休みに企画している海外ツアーの話をしていて、その企画に関わるようになったきっかけは、その企画の責任者と「立ち飲みcafe clovers」で出会ったことだ。相談の内容は、その企画の集客だったが店長が伝えた答えは、日々の生活のことや何のために今何をするかという概念的なことだった。これこそ学生が相談に来る理由だと思った。
ひなた	2013/5/1	徐々に学生が増えている。	経済学部の田中靖人ゼミのプロジェクト「smart」の学生たちが、マーケティング・企画・広報の手伝いをしている。①夜ランチ企画②twitterアカウント制作、運営	クーポン券(100円引)の配布、twitter	オープン当初は学生には値段が高いという印象のせいか、あまりお客さんがなかったが、最近ランチタイムに満席になるほど。学生さんとの関わりとして、経済学部の田中ゼミの方との関わりもあるので、これからまた増えていってほしい。

6) café kozora では、同志社大学生発行の冊子への広告協賛という形で学生と関わりを持っており、その冊子を見たり、制作者の口コミによって学生に認知されたりという、新たな学生への広報を行っている。17) 立ち呑みカフェ CLOVER では、人生相談を受けた学生が友達を呼んできたり、ピラ配りという広報の手伝いをしてもらったりすることで関係性を築き、学生客獲得につなげようとしている。実際にただの飲食店ではないというイメージを学生が持っている。これらの2店舗は、学生の課外活動と関わりを持っている。

最も興味深いのは、課外活動ではなく授業の一環として学生と関わりを持っている19) ひなたである。結果の節でも述べたように、同志社大学経済学部の田中靖人ゼミのプロジェクトが、広報コンサルティングを行っている。ゼミでは様々なプロジェクトがあり、その一つとして、企業マーケティングコンサルティングを実際の企業とか関わりながら行う「smart」というものがある。「マールブランシュ」や「ことたま」というお店のコンサルティングをおこなっており、その活動の一つが「ひなた」の広報である。そこで「smart」を立ち上げた同志社大学経済学研

究科のIさんに、詳しくお話を伺った。

きっかけは、ゼミの学生からマーケティングを学びたいという声があり、じゃあ実際に企業と関わりながらやるのが一番だと思い、ゼミ内プロジェクトとして企業マーケティングコンサルのチームを作りました。

目的は、「学生の社会人としての基礎力の醸成」です。取り組み企業の現状を財務データや売上情報、ヒアリング、リサーチを通して把握し、売上予測、目標を立て、マーケティング戦略を立案、実行し契約期間内で仮説検証を行いながら目標達成をめざします。完全成功報酬で行っています。成功報酬といっても、学業やアルバイトなどの拘束時間のあるフルタイムの社会人のように働くことは不可能なので、企業が行っているコンサルティングと比べると金額はかなり低く設定しています。

ゼミとして、①長期的にみた売上向上②それを達成するための仕組みを提供することで、お店や企業からは、①学生への教育②財務諸表などのより内部に入った数値の提供③成功報酬の支払い（かなり低い価格設定）を学生に提供してもらおうという形で関わりを持ってもらっています。「ひなた」さんへは、近隣店舗を探していたときに、たまたま個人的にいったときにここはもっと売上をあげられるのではないかと思い、こちらからお願いさせていただきました。「ひなた」さんに関しては、ゼミのメンバーの知識やスキルが不十分な段階で教えながら行っているため無報酬でやっています。今後は、成功報酬に切り替える予定です。「ひなた」と話しているのは、代々ゼミ生に引き継いでもらって、ゼミで学問を学びながら、「ひなた」さんを含め近隣店舗で社会人としてのスキルを教えるという構想を練っています。学生、大学、企業、地域など各々に意義のあるものにしていきたいと考えています。（Iさん）

学生側から飲食店に働きかけ、関係を築いたことが分かる。それを店舗も受け入れた結果、学生客が目に見えて増え、信頼関係も築けており、学生にも店舗にも良い効果を生んでいる。

3. 今後の展望

今出川に通う学生が増加してすぐに、地域の個人経営の店舗の学生客が増加するという影響はなかったものの、学生の増加を意識して経営に活かしている店舗が多いということが今回の調査で分かった。2013年に増加した1,2年次生が今後上級生となり、また今の学生数に安定する数年後には、同志社大学生をターゲットとしたサービスや、新店舗が増えてくるのではないかと予想できる。

19)ひなたのように、今後文系学部の学生が地域の飲食店へ経営の面から興味を抱くことは可能性として十分あり得ることであると考える。また、学生と個人経営の飲食店の新たな関わり

方はこれからも考えられ、試されていくだろう。今回のフィールドワークやインタビュー調査を通して、学生と好意的に関わってもらえると考えられる店舗はいくつもあった。個人経営の飲食店は、チェーン店とは異なり、飲食をする場所としてだけではなく、社会勉強や地域活動の場として学生との関わりが増えるのではないかと考えられる。その関わりによって学生客が増え、飲食店の利益につながる、という展開が生まれていくと考えられる。

第1章で大学と地域との関係について述べた。同志社大学生と今出川地域との新しい関係を今回の調査から見ることができた。今までの「大学と大学がある地域」という関係だけではなく、大学や学生が地域に入って学びの場としている事例があることが分かった。つまり、大学と地域が関係性を築いていく上で、「個人経営の飲食店」もその切り口の一つになると考えられるのではないだろうか。

おわりに

今出川地域の飲食店を調査する中で、チェーン店だけではなく多くの個人経営の飲食店が存在することが分かった。それらは、開店の動機や規模、営業形態がそれぞれ多種多様であり、必ずしも同志社大学生をターゲットにしたものではなかった。大学近くの店舗であるほど、同志社大学生を意識しているかと予想していたが、昔からあるお店の場合はそうではなく、近所の方や昔からのお客さまが多いということが分かった。

今回の今出川校地への文系学部移転では、一年前ほど前から学生が溢れるほど増えるという噂が立っていたようだ。学生客が増えるという期待が高かったが、それほどの効果がなかったのがインタビュー調査で実際の声としてあがった。その原因として、二つのことが考えられる。一つ目は、仮説を立てた通り、烏丸今出川に出来た大型商業施設の影響だ。そこに入っている大手チェーン店に学生が多く通ったことである。もう一つは、学生のライフスタイルの中に個人経営の飲食店に行くということが含まれなくなっているということだ。インタビューの中で、「学生さんは、ちょっとお茶飲もうと思ったらコンビニで買って、学校で済ませはるでしょ」と言われた。深く意識をしたことはなかったが、あらためて考えると、学生が学校付近に出歩く機会が減ってきていることに気づいた。その背景として、学校内の施設の充実やスマートフォンのゲームの充実などによって、休み時間や授業の空き時間に学内で過ごす学生が増えたことが考えられる。飲食店だけではなくコンビニも個人経営の飲食店にとって競合になっていたことが分かった。

一方で、学生の個人経営の飲食店との新しい関わり方も見ることができた。授業の一環で、経営や広報について学び、社会経験を積む場所として使われていたり、店主との個人的な関わりを持つことで飲食をするという目的だけではなく通っていたり、それはまさに大学の近くに

ある個人経営の飲食店でしか生まれたい関係性であった。この動きは、新しいお店に限ったことではなく、古くから続く飲食店の間にも今後広がるのではないかと感じる。

今年まさに目の前で起こった今出川校地への文系移転にともなう学生数の増加の影響を調査する中で、まだまだこれから影響が出てくるのではないかと感じる部分が多々あった。個人経営の飲食店では、経営者や店主と顧客との間にチェーン店やコンビニでは生まれにくい人間関係が生まれやすいことが特徴である。今回の調査では、地域の飲食店経営者の方が同志社大学生に興味を持っていることだけではなく、その人間関係がこれからの学生と飲食店との間に新たに築かれる可能性を感じられたことが、成果であると考え。5年後、10年後、増加した学生数が定着したときに、同志社大学生と個人経営の飲食店との関係がどのように変化しているのかに期待したい。

[参考文献/参照 URL]

- 1) 荻谷剛彦編, 1995, 『キャンパスは変わる』.
- 2) 小林秀彌, 1978, 『大学のキャンパス計画』彰国社.
- 3) 西山千明・奥田道夫編, 1990, 『21 世紀の都市型大学に向けて』時潮社.
- 4) 社団法人日本私立大学連盟学生部会, 1997, 『学生生活白書 新しい大学のあり方を求めて』開成出版.
- 5) 第 48 回学生生活実態調査 全国大学生協協同組合連合会
- 6) 同志社大学, 2014, 「同志社大学」, 同志社大学, (2013 年 12 月 15 日取得,
<https://www.doshisha.ac.jp>)
- 7) 立ち飲みカフェ CLOVER, 2013, 「立ち飲みカフェ CLOVER」, 立ち呑み Cafe クローバー -, (2013 年 12 月 16 日取得, <http://cloveres.com>)
- 8) café kozora, 2014, 「★ café kozora ★」, JUGEM, (2013 年 12 月 3 日取得,
<http://cafekozora.jugem.jp>)
- 9) twitter, (2013 年 12 月 10 日取得, https://twitter.com/Hinata_0121)
- 10) twitter, (2013 年 12 月 10 日取得, https://twitter.com/mon_ami_imade)